

北日本新聞
2023年4月8日
朝刊掲載記事



県内製薬企業の働き方改革

県内医薬品メーカーの間で、新たな人事制度導入や組織風土改革の動きが広がっている。働く時間を自由に選べる「フレックスタイム制度」や職務内容をおおらかじめ明確にして専門性に応じて処遇する「ジョブ型雇用」を導入したり、部署間の連携強化に向けたワークショップを開いたりといった取り組みがある。働きやすさや働きがいのある職場環境を整備し、人材の確保・定着につなげるのが狙いだ。

(相川有希美)

医薬品業界では不適切製造問題や薬価改定などを受け、経営環境の厳しさが増している。中長期的な収益確保と会社の成長に向け、優秀な人材の取り込みが重要課題となっている。

ジャパンメディック（富山市横越、前田和也社長）は2018年から、全社的な組織風土改革に取り組んでいる。部門の縦

所属部門を越えて新製品の開発工程を話し合うジャパンメディックの社員。右は前田社長
富山市横越



人材確保へ環境整備

判り体質が課題だったことから、製造や開発、営業など全部門の社員が参加する対話の場を定期的に設けるようにした。さらに他部門の仕事を理解するための「社内インターンシップ」も開始。自分が所属していない部署の仕事を手3日体験する

もので、累計参加者は40人程度に上る。こうした取り組みにより、部門間の対立が解消して業務の円滑化につながった。現在は新製品の開発に関する課題を洗い出す部門横断型のワークショップも行っている。前田社長は「業

界が苦しい中でも選ばれる会社になるには、人的投資が不可欠だ」と強調する。

出退社時間自由に
柔軟な働き方を取り入れる動きもある。池田模範堂（上市町神田、池田嘉津弘社長）は昨年